

島根県支部

島根県における R u b y を活用した地域振興と I T 企業の現状と課題

オープンソース・ソフトウェアのプログラミング言語である「R u b y」は、プログラム開発時のソースコードの記述量が少なく、開發生産性が高いこと、システムへの変更要求に柔軟に対応できることから、近年、国内外の大手企業からも注目を集めている。

また「R u b y」の開発者である「まつもとゆきひろ」氏は島根県松江市に在住しており、島根県や松江市では「R u b y」を産業発展に向けた地域の基盤資源と位置づけ、R u b y を軸とした I T 産業振興に取り組んでいる。

第 1 章は、地方や島根県における I T 産業を取り巻く環境をまとめ、松江市と島根県、また福岡県の R u b y 振興施策を紹介した。

第 2 章は、社団法人島根情報産業協会内に設置された「しまねソフトビジネス研究会」に所属する 37 社の I T 関連企業にアンケート調査を実施し、24 社（回収率 65%）の回答を得た。

課題として認識している主なものは、「基幹系業務開発での実績が不足」、「ライブラリ、プラグインとの互換性の確認が必要」等であった。

第 3 章では R u b y ビジネスモデル研究実証事業を行った 4 社のヒアリングや報告書をもとに内容をまとめた。

第 4 章は、R u b y ビジネスの状況と展望（県内 I T 企業）として以下の通りまとめた。

・県内 I T 企業の R u b y ビジネスの実態

■事業分野と R u b y ■県内 I T 企業の売上高、従事者数

・O S S（オープンソースソフトウェア）と R u b y

■O S S と R u b y ■R u b y の優位性 ■システム構築における R u b y の適合性

*アジャイル型開発と R u b y *W E B 型システムと R u b y

・県内 I T 企業における R u b y 事業

（県内 I T 企業で展開される R u b y 事業についての状況分析）

■強み ■弱み ■機会 ■脅威

・県内 R u b y 事業の展望

■中国地域 R u b y 拠点の形成 ■県内 R u b y ビジネスの展望

*A R C（Agile、Ruby、Cloud）について

R u b y（ルビー）は国産、地方発信のソフトウェアであることや、行政の強力な後押し、自身の新規性、発展性とが相まって話題にもなりやすい。このような状況の下、県内 I T 企業における R u b y 事業は、その「開発」「生産」「販売」面で、さらには、「A R C」（Agile、Ruby、Cloud）との相乗効果により、新たなビジネス展望が期待できる。